

第1節 シルバー人材センター会員にとって なぜマナーが必要か

① 高齢者の働く場に欠かせないのがマナー

皆さんは、現役時代に会社や各種団体あるいは公務員など、さまざまな場で活躍をされてきました。当時を振り返ってみますと上司や部下、同僚といった組織の関係者をはじめ、取引先や地域住民など、多くの人たちと協力し合って仕事を進めてこられたと思います。

さて、あなたは現役をリタイアされてシルバー人材センター



にお入りになりました。

センターはご承知のように請負で働く場合が中心ですが、その場合は「雇用関係がなく、誰からも指揮命令をうけることなく、自分の責任で共働・共助の仕組みの中で仕事をする組織」です。

もし、自分一人が最低限のルールを守っていればよいと思っていないませんか。そう思っておられたらそれは間違いです。

常に周りの人に心配りをし、そして、目に見える形でそれを表すことが大事です。その表し方も長い人生の経験者らしく尊厳と優しさを持って表現することが大切です。この表現や態度がセンター会員の働く場にとって欠かせないマナーです。

② マナーはあなたという人の人格を表す

マナーは人生の先輩として特に必要です。シルバー人材センターの仕事は、総じていえば地域の方々へのサービスです。また、センターの基本理念にもありますように会員皆で「共働・共助」の精神がなければなりません。

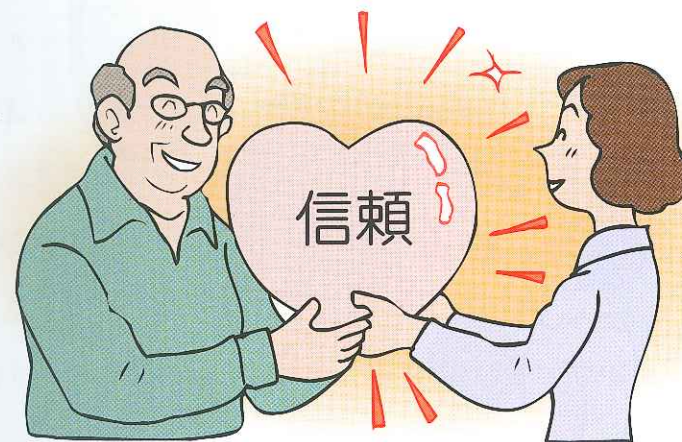
このことは、いわゆる人間関係を大切にして発注者や市民（区民）との信頼関係を築くことにあります。

年輪を積み重ねたあなたです。その年輪にふさわしいマナーで周囲に接することは、人生の先輩としてきっと大きな信頼を得られることでしょう。

③ あなたのマナーでシルバー人材センターの信頼度が問われる

あるセンターで公共機関から駅前駐輪場の自転車整理を請け負っていました。ところがこの仕事別グループのリーダー的存在の会員がマナーをわきまえず、住民の方々から再三にわたって公共の発注者である市役所に「取り扱いが横柄だ!! 接客態度がなっていない!! 公平でない!!」などの苦情がだされました。

市役所では、このような会員のいるセンターとは、契約の継続は再検討しようという話になりました。これでは、その仕事を失うことになりかねません。



一人の会員のマナー次第では、その人だけにとどまらず発注者はもちろん市民（区民）からもセンターそのものが大きく評価を落とすことになります。

一人の会員の行動ひとつで、多くの会員が仕事を失うことにもなりかねません。



4 シルバー人材センターの仕組みや理念を理解し、立場を知る

シルバー人材センターの組織は、現役時代の雇用関係にある組織と違い、請負で働く場合が主体です。また、雇用関係を誰とももたないで、仕事は自らの責任で行うことになっています。これを勘違いして「すべて自分で判断して、いつでも何処でも自分で勝手にやればいい」と思っている会員がいるようです。

しかし、センターの組織ではそれは通用しません。センター

の会員として入会されたら、あなたは「社団法人〇〇市（区）シルバー人材センターの一員」です。その立場をしっかりと理解し、「自主・自立」の「立」には自らが積極的に生きること
に立ち向かっていくという意味と同時に、自らを律する「自律」の意味が含まれていることを自覚しましょう。

そして、センターの内容や考え方、また理念をよく理解して、誇り高き会員として、マナーに沿った会員活動に心がけましょう。

